

第1章 事業の総括評価

趣 旨
評価結果
総括評価

趣旨

日本・韓国青年親善交流事業は、日本及び韓国青年の相互理解と友好の促進を目的とした日本政府と韓国政府との共同事業であり、名称のとおり両国の友好の象徴として実施しているものである。

また、日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「青年の国際的視野を広げ、国際協調やリーダーシップを持った青年を育成する。国境を越えた青年相互の友好と理解を促進し、長期にわたる緊密な人的つながりを形成する。」ことであり、事業参加によってコミュニケーション力や異文化対応力等の能力向上が図られることをねらいとしている。

本事業では、以上の目的を達成するため、国家及び地方行政への表敬訪問、その時々テーマを選定しての両国青年による合宿型ディスカッションプログラム、首都に加え複数の地方都市における地元青年との交流やホー

ムステイ、産業、文化、教育施設の訪問等様々なプログラムを実施しており、実施に当たっては、日本と韓国の双方においてリクエストを出し合いながら十分な意見交換を行い、人的交流の重視を基本とした見直しを毎年行っている。

今回、本年度事業の成果を測るため、日本参加青年及び韓国招へい青年の全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、日本参加青年に対しては、事前研修時と帰国後研修時に能力向上に関する自己評価の変化について比較調査を行った。

事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。日本青年の能力向上に関する自己評価の比較調査については、他の調査との比較の関係で6段階評価（評価の高い方から6～1）によるものとした。

※5段階評価のアンケートの詳細については「第4章 資料編」参照。

評価結果

事業目的の達成度

① 日本と韓国の相互理解の促進

<日本参加青年>

「この事業を通じて、あなたと韓国の人々との相互理解が深まったと思いますか。」との問いに対して、5段階評価の3（ある程度深まったと思う）以上をつけた日本参加青年は92%、4（良かった）以上をつけた青年は63%で、高い評価であった。

日本参加青年からは「同じ意見、同じ悩みを分かち合うことで互いに理解ができた」「ディスカッション等を通じて、互いの違いを尊重し、理解し合える関係性を築き上げることができた」等のコメントが寄せられた。

<韓国招へい青年>

「この事業を通じて、あなたと日本の人々との相互理解が深まったと思いますか。」との問いに対して、5段階評価の3（ある程度深まったと思う）以上をつけた韓国招へい青年は100%、4（良かった）以上をつけた青年は52%で、半数が高く評価していた。

韓国招へい青年からは「言葉が違っていても似ている部分が本当に多いと感じた」「一つのテーマでディスカッ

ションする時間があり、また、毎晩日本の青年と話をして同世代の考え方を知ることができた」等のコメントが寄せられた。

② 日本と韓国の友好の促進

<日本参加青年>

「この事業を通じて、あなたと韓国の人々との友好が深まったと思いますか。」との問いに対して、5段階評価の3（ある程度深まったと思う）以上をつけた日本参加青年は92%だった。4（良かった）以上をつけた青年は71%で、高い評価であった。

日本参加青年からは「今回限りではなく、これから一生付き合っていきたいと思える友人がたくさんできた」等のコメントが寄せられた。

<韓国招へい青年>

「この事業を通じて、あなたと日本の人々との友好が深まったと思いますか。」との問いに対して、5段階評価の3（ある程度深まったと思う）以上をつけた韓国招へい青年は100%、4（良かった）以上をつけた青年は67%で、高い評価であった。

韓国招へい青年からは「日韓青年親善交流のつどいやホームステイなどのプログラムを通じて友好が深まった」等のコメントが寄せられた。

③ プログラムへの満足度

訪問国プログラムの内容についての全体評価は、日韓両国の青年とも全員が5段階評価の3（ある程度良かった）以上をつけた。4（良かった）以上をつけた日本参加青年は79%、韓国招へい青年は81%で、いずれも高い評価だった。

日本青年韓国派遣では、主な印象に残った訪問先として、19名の日本参加青年が「ヘマルグムセンター」と答えた。「韓国にも日本と同じようにいじめがあり、深刻であることが分かった。また、具体的に対策している現場を見られたことが良かった」とのコメントからも、個人旅行では訪れることのできない施設で学べたことに満足する日本青年が多いことがうかがえる。また、同じく19名の日本青年が「独立記念館」と答えており、「日韓交流していく中で「歴史」は重要度の高いものであり、観光ではなかなか行かないところなので本当に良かった」等のコメントがあった。

韓国青年招へいでは、「歴史、文化、産業、交流等と関連して、多様なプログラムで構成されていた」「個人

旅行では感じられない新しい体験をすることができた点良かった」というコメントがあり、こちらも個人旅行では体験できないプログラムの組み立てが高い満足度につながったことがうかがえる。

東京プログラムでは、「裏千家」や「浴衣体験」などの文化体験プログラムや、日本青年との合宿プログラムである「日韓青年親善交流のつどい」がいずれも高評価であった。

地方プログラムは、愛知県、滋賀県共に高評価であった。愛知県では「知多翔洋高校で多様な部活動を見学し、高校生と交流することができて良かった」等、高校訪問についてのコメントが多く、学校生活や教育システムの違いに対する関心の高さがうかがえる。滋賀県ではホームステイについてのコメントが多く、日本滞在中もっとも印象に残ったことにホームステイと答える韓国招へい青年も多かった。豊かな自然の中で情の深い人々との交流ができる地方ならではの魅力を堪能できたことが、高い評価につながったものと思われる。

日本参加青年の成長

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と帰国後研修時での能力の成長の変化について6段階（6＝十分備えている、5＝備えている、4＝ある程度備えている、3＝あまり備えていない、2＝備えていない、1＝全く備えていない）による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

- 「コミュニケーション能力」については、
4.5から4.7となり、0.2ポイントの増。
 - 「異文化に対応する能力」については、
4.7から5.1となり、0.4ポイントの増。
 - 「チャレンジ精神」については、
4.3から4.2となり、0.1ポイントの減。
 - 「問題解決能力」については、
4.1から4.5となり、0.4ポイントの増。
 - 「企画力」については、
3.9から3.8となり、0.1ポイントの減。
 - 「マネジメント力」については、
3.7から3.9となり、0.2ポイントの増。
- （ポイント数については、小数点第2位以下四捨五入）

伸び幅が大きかったのは、「異文化に対応する能力」と「問題解決能力」である。

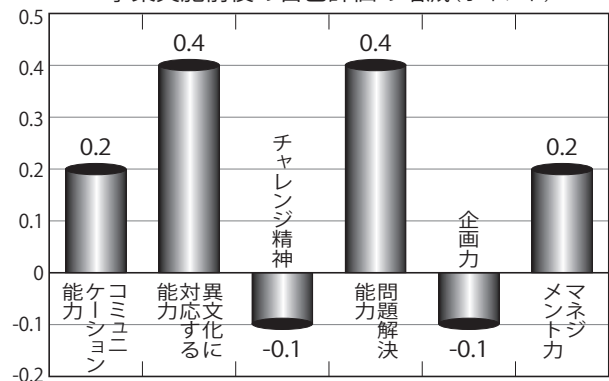
「異文化に対応する能力」は、事前研修時から4.7ポイントと高い得点であったが、事業を通してさらに伸び、

5.1ポイントに達した。観光や視察では体験することが難しい韓国青年との二泊三日の青少年交流会やホームステイ、大学や高校訪問での意見交換等、多くの韓国人との直接的な交流を通して、異なる習慣や考え方に対応する能力の向上に大きな影響を与えたと考察できる。

また、参加青年は、団の目標やディスカッションテーマ、日本文化紹介の内容を検討する中で、様々な意見を一つにまとめていく過程を経験しており、「マネジメント力」の増（0.2ポイント増）に見られた。さらに、特に団として様々な課題等に取り組んだ経験が「問題解決能力」の向上に影響を与えたと考察できる。

一方、「チャレンジ精神」と「企画力」はポイント減となった。韓国滞在中は、比較的日本語が堪能で日本に高い関心を持つ韓国青年たちと交流する機会が多く、積極的に挑戦する姿勢を持たなくても深い交流ができた

事業実施前後の自己評価の増減（ポイント）



め、「チャレンジ精神」が高まったと感じない青年がいたものと考察できる。

また、訪問国活動プログラムは視察や現地青年との交流が多いことから、「企画力」の向上につながらなかったと考察できる。プログラムの中に、日本青年が自ら日本文化の授業を企画し、韓国の高校生に教えるものがあったが、「企画力」の向上にはこのようなプログラムがより必要だと考える。

韓国招へい青年の日本に対する印象の変化及び成果

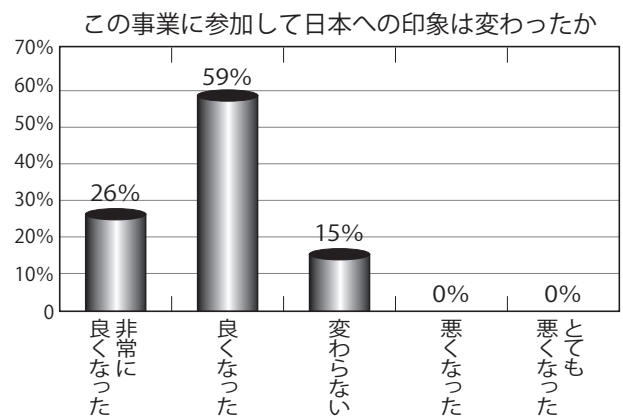
「この事業に参加して日本に対する印象は変わりましたか。」の問いに対し、5段階評価の4（良くなった）以上をつけた韓国招へい青年は85%であり、高い評価であった。

韓国招へい青年からは「誤解と偏見を捨て、良い点がたくさん見えたと感じた」「メディアを通じて触れていた抽象的な日本の姿と印象が、この事業を通じてもう少し具体的で良い印象として残っていくと思う」等のコメントがあり、各種プログラムを始め、ホームステイや交流会等で出会った日本人の印象から日本について理解を深めることができたことがうかがえる。

また、3（変わらない）と答えた韓国招へい青年からは

「もともと日本に対して悪い感情よりも肯定的な考えを持っていたため変わらない」とのコメントがあった。

韓国招へい青年が具体的に得られた成果としては、「あなたは、この事業からどのような成果を得ましたか。（複数回答可）」の問いに対し、「日本の社会事情や日本の文化について理解を深めることができた」には22名（27名中）、「人脈を拡大したり、多くの友人を得たりすることができた」には23名（27名中）が回答しており、本事業が日本に対する理解の促進を図るだけでなく、交流プログラム等を通じて多くの友人を作ることができるプログラムであり、参加青年はそれを成果として捉えていることが分かる。



総括評価

最後に、アンケートの総合評価を含めて、今回の総括評価をまとめる。

「この事業をどのように総合評価しますか」との問いに対し、5段階評価の3（ある程度良かった）以上をつけた日本参加青年は96%、韓国招へい青年は100%であり、4（良かった）以上をつけた日本青年は75%、韓国青年は85%でいずれも高い評価だった。

日本参加青年からは「この事業でしか訪問できないところを訪れ、会えない人々に会えた。自分の人生の中で大きな一歩になった」「自分とは全く違う環境で育った人々と出会い、学び合い、お互いに高め合えた」等の前向きなコメントがあった。また、韓国招へい青年からは「両国間の文化交流だけでなく、より多様で価値のある経験ができた」「たくさんの縁を築くことができ、二度と忘れることができない大きな経験になった。この経験が今後の人生にも役立つと信じている」等の前向きなコメントがあった。

日本青年韓国派遣、韓国青年招へいともに、各種プログラムや現地青年等との交流活動を通じて両国青年の相互理解と友好の促進を図ることができたと評価している。

以上の評価結果から、「日本青年と韓国青年の相互理解と友好の促進を図る」との本事業の目的に対して、日本と韓国の参加青年の双方から、プログラム内容を含めて、お互いの国への認識及び理解について高い評価を受けており、本年度の事業も十分な成果を収めたものと評価する。

また、日本参加青年による能力向上に関する自己評価をみても、事前研修から様々な準備に対応し成果を達成したことがうかがわれ、研修効果は高いものであったと認識している。

日韓両国の間では、メディア等を通じて得られる情報が多いが、本事業は、同世代の青年同士のディスカッションやホームステイ等、人と人との交流を通じて互いの国や人々に対する認識をより望ましい方向へと変化させたものと考えている。今後、参加青年が、本事業で築いたネットワークを活用し、両国の「架け橋」として活躍することを期待している。